

pal*system
パルシステム山梨

オープンカレッジ 映画上映会

甘いバナナの苦い現実

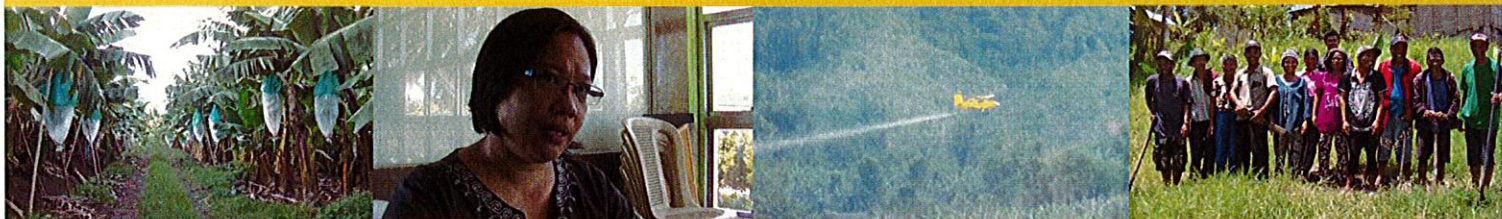
『バナナと日本人』から40年
——
フィリピンと私たちの関係性を考える

日時：3月2日(土)
13:30より(開場13:00)
会場：ジット甲府プラザ
(甲府市高畑2-19-2)
定員：100名
参加費：無料

日本で最も愛され、食べられている果物、バナナ。しかし、その生産現場を私たちが目にするのはほとんどありません。日本のバナナの主要な輸入先であるフィリピンのミンダナオ島では、近年、「高地栽培バナナ」の生産が盛んです。日中と夜の寒暖差が大きい高地で時間をかけてつくられるバナナが、日本市場向けに開発されました。この高地栽培バナナは、一般的なバナナよりも糖度が高く、「甘くておいしい」と人気の商品で、島の豊かな自然の恵みとも謳われていきます。ところが、生産現場を訪れると、農薬の空中散布にさらされて暮らす生産者や近隣住民の姿がありました。

人々の皮膚や目の異常を訴え、飲み水の汚染にも苦しんでいます。企業と契約を結んだ人びとからは、不透明で不公正な契約に対する怒りの声も聞こえてきました。一方、ミンダナオ島には、公正な取引と農民の自立、農薬を使わない栽培を目指すバナナ生産者や、それを支えるパートナーの取り組みも徐々に広がっています。

故・鶴見良行が『バナナと日本人』で私たちとバナナ生産地の関係を問いかけてから約40年。多国籍企業による世界の農業・フードチェーンの支配に対して、私たちは何ができるのでしょうか。バナナを通して世界と日本を見つめなおします。



《お問い合わせ先》

生活協同組合パルシステム山梨 運営室 TEL. 055-243-6327

協賛：(一社) 山梨県労働者福祉協会